20th
認定 NPO 法人
コロンブスアカデミー記念誌

目　次

設立趣旨書 …… 1

コロンブスアカデミーのあゆみ …… 3

スタッフ座談会「20 年前のコロンブス」 …… 5

スタッフインタビュー「子育て支援のはじまり」…… 10

応援メッセージ …… 14

コロンブスアカデミーのこれからを考える …… 19

～20 年前、設立当時の思いをご紹介します～

設　立　趣　旨　書

特定非営利活動法人 コロンブスアカデミーは、 神奈川県横浜市所在の任意団体インターナショナルコロンブスアカデミー（以下I.C.Aと略す）を中心母体として、I.C.A代表者、スタッフ、民間のボランティア、 医療、 教育関係者、I.C.A生徒の保護者及びI.C.Aの活動に賛同する一般関係者らの有志が設立人となって、　その総意に基づき独立した法人として設立される。
I.C.Aは1989年に設立以来、 不登校や引きこもり、 家庭内暴力など学校生活や地域生活になじめない子ども達と関わってきました。
現代の子ども達を取り巻いている生活環境は多様性に満ちたストレスが、　渦巻いております。しかしながらこのような子どもたちの心身にわたる不健康に対する積極的な対応策は、 残念ながら極めて貧困であるのが現状であります。　最近の文部省調査で、　小中学校あわせて12 万人を超えたといわれる不登校児、 それにもまして増加の一途にある社会参加できない青少年の問題……。
私達I.C.Aは様々な活動を通して青少年の健全育成に向けて試行錯誤を展開してまいりました。 コロンブスフリーハウス（共同生活寮）でのスタッフとの共同生活、 キャンプ、 各イベントの実施、 勉強会、 地域との交流、 英会話教室や絵画教室、 通ってくる子どもたちの為の居場所運営、 海外留学の斡旋、 小型ヨットでの外洋航海 ……。 中でもヨットでの長期外洋航海が、 他に例を見ず今年で17回目を迎え、 カナダ、 オーストラリア、 南太平洋、ニュージーランド へと活動を継続，発展させて参りました。海を中心とした大自然との出会いや異文化体験を通じて子どもたちの自立への手がかり，さらに自己決定力を身につける手助けが出来たと大いに自負いたしております。
又、 行政及び民間の関係諸団体との連携の必要性，多くの個別相談を通して、 コーディネーター的役割の必要性，カウンセリングのみに留まらない、 多様なプログラムの企画実行、情報提供の重要性を感じるものであります。その活動にはI.C.A 一団体の利益のみを追求するものではなく、 広く子ども達に多くの生きていく指針を与えるものと信じます。

このように子どもたちの健全育成を図る為の機関の社会的ニーズの大きさや社会的異議の重要さは増すばかりでありますが、 個人の努力やボランティアで取り組むことは限界点に達しております。 特に、I.C.Aのような 任意団体では公の助成金を受けることもままならず保護者の経済的な負担を考えてスタッフの賃金は社会的平均から見て著しく低額に押さえられており、スタッフのボランティア的精神に依存していることが大であります。 しかし、 今後将来にわたり活動を継続し、 また活動の質を高めていく為にはスタッフに生活を保証していくことは不可欠の前提であると考えます。 上記のことを鑑み，私達設立人とスタッフ及び「コロンブス後援会」（保護者会）の会員並びにI.C.Aの活動に賛同する一般関係者有志は、 ここに独立した法人として特定非営利活動法人コロンブスアカデミーを設立することに同意いたしました。 私達はこの法人が設立された暁には、この趣旨に賛同する全国からの多くの支持者協力者とともに、 子どもたちの健全の育成のための着実な貢献を成し得るものと信じます。

平成11年11月30日　特定非営利活動法人コロンブスアカデミー

設立代表者　　金森 克雄

コロンブスアカ デミーのあゆみ

2000 年	2 月 15 日 N PO 法人コロンブスアカデミー神奈川県認証 7 月 1 日 シンポジウム 「追いつめられていく?!子ども達」開催 8 月 1 日 ニュースレター「KIAORA」第 1 号発行
2001 年	3 月 3 日～ 4 日 六浦共同生活舎「ムツコロ」 オープニングパーティー
2002 年	1 月～2004 年 2 月 ファイザー製薬助成事業（体験合宿）
2002 年	12 月 キララ賞（生活クラブ生活協同組合） 授賞式及び神奈川県知事表敬訪問
2005 年	・アトリエコロンブス開所 ・横浜市地域コミュニティークラブ（YCC 磯子） 子どもの居場所開設（～ 2007 年度 ） ・訪問事業（メンタルフレンド）開始
2006 年	・六浦共同生活舎 金沢区から中区へ移転 ・「横浜共同生活舎 ハマコロ」に改名 ・商店街こどもインターンシップ・モデル事業 「おーぷんはうすHAMA」開所
2007 年	自主事業で子育て支援 親子教室スタート
2008 年	4 月 親と子のつどいの広場事業 「子育てスポットくすくす」開所 WAM助成事業「わいわいコロンブス」開設
11 月	よこはま南部ユースプラザ開所

2009 年	4 月横浜市の放課後児童クラブとして 「ぽにょぽにょ学童クラブ」開所
2010 年	5 月 プレ教室ぽっかぽかスタート
2011 年	子育てスポットくすくす 一時預かり事業開始
2012 年	4 月 金沢区青少年地域活動拠点「カナカツ」開所 7 月 神奈川県から指定を受け、 指定NPOになる 10 月 第 6 回かながわ子ども子育て支援奨励賞 受賞
2013 年	3 月 横浜市から認定を受け、 認定NPO法人になる 4 月 自立援助ホーム開設（~ 2019 年 6 月）
2014 年	1 月 生活支援事業・金沢区寄り添い型学習支援事業 「いろは塾」開所
2015 年	4 月 ぽにょぽにょ学童クラブ改め、 自主事業「放課後ドラマぽにょ+」としてスタート
2016 年	横浜市社会福祉協議会より感謝状
2017 年	6 月K2グループ 日本地域福祉学会地域福祉優秀実践賞 受賞 11 月 磯子区青少年の地域活動拠点イソカツ 開所
2018 年	6 月 よこはま南部ユースプラザ 磯子に移転
2020 年	6 月 コロンブスアカデミーこども食堂 「250 にこまる+プラス」スタート

スタッフ座談会「20年前のコロンブス」

岩本）NPO コロンブスアカデミーは、 2000 年 2 月 25 日に神奈川県の認証を受け、
今年で 20 周年となりました。
20 年前のことを思い出して色々語っていただきたいと思い、 当時のことをよく知るスタッフにお集まりいただきました。 ここにいる皆さんの共通点として、 NZ で出会い、 その後横浜でスタッフとして現在に至っているのですが、 NPO 設立のころに横浜で仕事をしていたのは、覚知さんでしょうか?

覚知）はい、 ちょうど NPO の認証申請をしている頃に帰国し、 横浜で仕事を始めました。
そのころ、 根岸中学校で、「追い詰められた子どもたち」のシンポジウムを開催したのを覚えています。 不登校支援でつながりのある団体や先生型を招いてのイベントで、
永田先生、 CLCA の和田さん、 たまりばの西野さんに登壇いただきました。

岩本）当時横浜ではスタッフというとお好み焼きコロンブスで働いていたイメージですが、
千明さんは最初から事務局スタッフでしたか?

覚知）実は、 一日だけお店に入りました。（笑）お好み焼きころんぶすは、 元生徒や海外から戻ってきたスタッフが働いていました。（当時のパートさんの中には、 今も継続して働いている方もいらっしゃいます。）私は、 基本的には事務所勤務で、 NPO の立ち上げ準備をしていましたが、 NPO のことも全くわからなくて、 いろんな人に助けていただきながらの手探りでした。

岩本）真弓さんもその頃は横浜にいて、 お店に入っていましたよね?

左から 生活担当責任者（看護師・精神保健福祉士）三浦真弓・ K2 事務局 覚知千明・就労支援統括コーディネーター 岩間美由紀
寄り添い型支援統括責任者 亀山友理子・飲食部門統括責任者 鳴海加奈子

三浦）はい。 私も NZ でボランティアスタッフとして、 コロンブスに出会い、 横浜でスタッフとして 1 年半くらいは、 お好み焼きコロンブスで働きました。 失敗ばかりでしたが…（笑）背が低いので、 根岸店の鉄板が高くて、 専用の踏み台を作ってもらって焼いていました。今思うと本当に向いていないのに、 よくやっていたなぁ…と。 大きなミスでは、 作ったばかりの塩辛をお客さんにぶちまけたこともありました。（笑）看護師になるため、退職し、 病院勤務をしながらたまに顔を出していました。 その後、 またスタッフとして戻り、 現在に至ります。

岩本）美由紀さんも大学出てNZのワーキングホリデーで、 ボランティアスタッフでしたよね。

岩間）はい。 帰国して地元で教員試験を受けようか迷っていた時に
真実さんに誘われ、 横浜に来て、 お好み焼きコロンブスで
働きました。

岩本）友理子さんはいつ頃ですか?

亀山）美由紀さんと一か月違いくらい後です。 共同生活しながらお好み焼き
コロンブスでお好み焼きを焼いていました。

岩本）皆さん、 横浜での共同生活は、 海外と比べてどう違いましたか?

鳴海）横浜は、 事務所が共同生活の寮も兼ねていたり、 新しい生徒が
増えると他にも根岸周辺でアパートを借りたり、 入寮生に合わせて
住む場所も変わっていました

亀山）私が横浜に来た頃が、 ちょうど 20 年前くらいで、 六浦にあるムツコロが、 共同生活寮でした。 当時スタッフの実家だったところをお借りして、 共同生活を始めたんですよね。

鳴海）ムツコロ寮は坂の上にあったから店が終わって坂を上がるのがきつかったよね～。
買い出しとかほんと重くて大変だった!

三浦）あの頃は、毎年社員の慰安旅行に行ったおもいでがあります。マザー牧場や温泉、楽しかった～。

鳴海）金森さんの末っ子の送り迎えしたよね～。 ほかの子どもたちのお弁当作ったり…

三浦）その頃は家と仕事が一体化してたからね。

覚知）その当時も業務レポート書いてた。

岩本）お店から FAX 送ってたね、 海外からも毎日 FAX していたよね。

鳴海）NZからの日報を業者さんに送っちゃった事あったな～（爆笑）
あの時はお店の日報しかなかった。 個人のレポートはなかったよね。

覚知）その頃私は、「ちあき塾」で、 金森さんのこども達やその友達に勉強を教えていました。

鳴海）事務所でやっていたので、 うるさかったね～（笑）

岩本）NPO コロンブスが出来て、 何か変化はありましたか?

覚知）ファイザーの助成金を取ることが出来、 たくさんの
生徒が増えて、 通いで週単位や月単位で来る生徒が増えましたね。

三浦）人数が増えて、 夜中に病院連れていくこともありました。 あの頃から夜中の救急のは
よく行ったね。

岩本）あと、 お店で教会をしましたね。「お好み焼き教会」！

鳴海）千明さんの結婚式も「お好み焼き教会」であげましたね。
お好み焼き結婚式！

岩本）お店がみんなの生活の中心にありましたね。
スタッフや生徒の就労の場はもちろん、 本人や家族の面談、
その他色んなイベントもたくさん行いました。

渡辺）港南台店はいつできたのですか?

覚知）2002 年です。 港南台店は、 NPO コロンブス設立のきっかけでもあり、
家族の会の皆さんに出資していただいて、 海外に行けない生徒たちの
研修の場として、 また海外から戻ってきた生徒
の就労の場として作られました。 立ち上げの時
には、 家族の会のお母さんたちが掃除や
オープン準備の手伝いに来てくれました。

岩間）新しいお店を立ち上げるのは、 みんな初めてのことで、 たくさんの人に助けて
もらいながらでしたね。 就労生として、 今では根岸店の店長になっている
元生徒など、 歴代メンバーが、 研修を受けていました。

渡辺）その当時の家族の会はどうでしたか?

鳴海）最初は、 根岸店でやっていました。 なぜか、 スタッフは紺の
ブレザー着用が絶対で、 貸出用のブレザーもありました。 ムツコロ
（共同生活寮）が、 出来てからは、 泊りがけの家族の会でした。

三浦）3 か月に 1 回だったので、 年に 4 回くらいでしたね。
鳴海さんのお父さんも料理を作りに来てくれましたね。

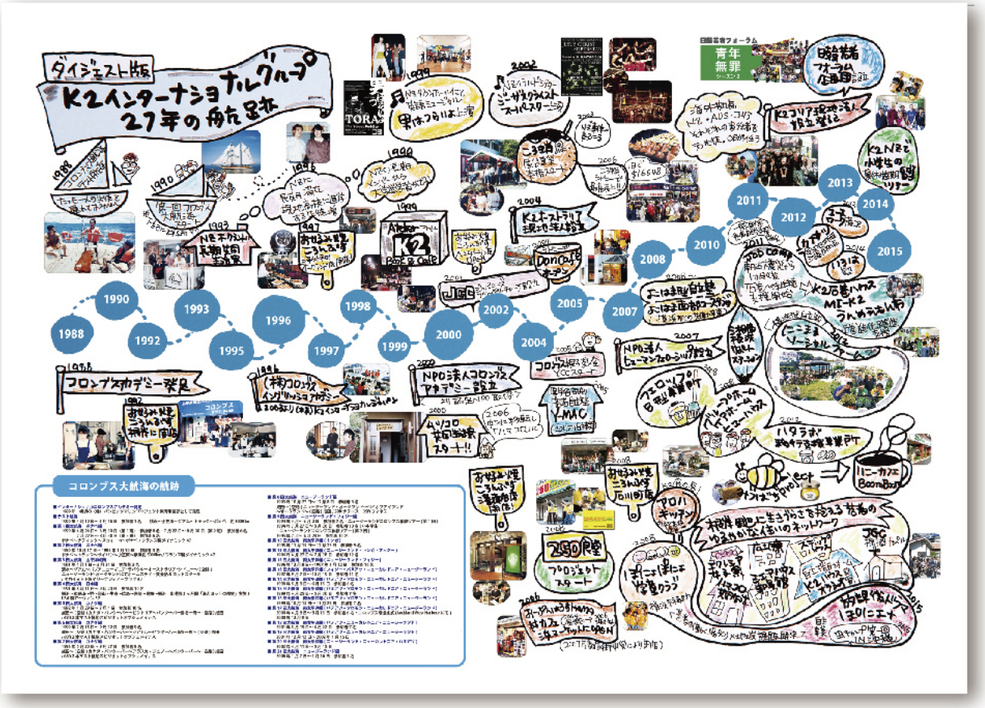
岩間）真弓さんのお父さんも山形から来てくれたり、 あの頃は、 スタッフ
も総出で、 遠方から来られた親御さんのほとんどは、 泊まっていました。
2 階で生徒たちがいて、 1 階で飲み会が始まり、 寝るスペースは雑魚寝！
朝ごはんもみんなで作りましたね。 金森さんが NZ にいる生徒の様子の話や、
向こうで撮った写真を見せて、 親御さんは、 それを楽しみにして
いました。 当時は、 今のようにネットもラインもなく、
電話も気軽にかけられない時代だったので、 親御さんは、
とにかく金森さんから我が子の様子を聞きたくて、
夜遅くまで話していました。
保護者面談は、 いつも縁側（笑）

渡辺）家族の会を考えると、今との違いがはっきりしますね。今は、当時の 10 代中心と違って、こども達の年齢も 10 代から 40 代までの幅広い層になりました。

福島）子どもと連絡を取るのに、色々制約があったからこそ自然に子どもとの距離もとることが出来た。まして、海外であればなおさらですね。今は連絡が簡単に取れるからこそ本人との距離を置くことが大切になり、頻繁に連絡を取らないほうがいいという根拠はここにあったというのがわかりました。

渡辺）今回の座談会に参加されたスタッフが 20 年以上前からずっとコロンブスの活動を支え、これからも発展させていく役割を担っていること、また、当時生徒だった若者がスタッフとなり、結婚し家庭を持ち、その子どもたちを今の生徒たちと一緒に見守る恩送りの形が作られていることは、素晴らしいと思いました。
これからの K2 グループの活動の中で、コロンブスの果たす役割は、地域で子どもたちの成長を見守り、途切れない支援を実施することだと思っています。恩送りの連鎖を垣間見られたようで、この先のコロンブスの 20 年もとても楽しみになりました。

岩本）みなさん、今日は懐かしい貴重な話をありがとうございました。



スタッフインタビュー、「子育て支援のはじまり」

岩本）今日は、コロンブスの事業の中でも子育て支援がスタートしたきっかけについて話を聞きたいと思います。子育て支援事業を始めるきっかけになったのが、千明さんだったんですよね?

覚知）はい。2003 年に妊娠して、出産というタイミングで夫の北海道への転勤が決まって、バタバタと主人だけ先に転居し、私は、5 月に出産してから 6 月に K2 を辞めて移動しました。北海道には、友人もいないし、親も親戚も頼れる人は誰もいませんでした。雪が多く、環境にもなれず、子育てに行き詰まっていました。いわゆる育児ノイローゼの状態で、なんとかしなくてはいけないと思って、地域の子育て支援の活動に参加しました。でも本当は、早く横浜に戻りたいと思っていたんです。横浜に戻ったら、自分もサポートしてもらいたいし、同じ悩みを抱えるママ達をサポートする場を作りたいと思っていました。

出来れば、子育てしながら働きたいとも思っていました。
そして、やっと 3 年後に東京に転勤になりました。
転勤が決まり、以前は川崎に住んでいたのですが、
子育てしながら K2 で働くには、根岸でなければ駄目だと思い、夫に根岸に住みたいと伝えました。
育児ノイローゼのようだった私を見ていたため、すぐに OK してくれました。
また、子育て支援のことをやらせてほしいと金森さんに話をしたら二つ返事で快諾してくれました。
2007 年最初はパートで子どもを連れて、北海道でもやっていた親子教室から始めました。
ヨガ、英会話、リトミック、ベビーマッサージ教室の 4 つの親子教室だったと思います。
その頃は、子どもと一緒に参加できる場があまりなかったので、参加者が増え、賑わっていました。翌年には、その親子教室で WAM の助成金を取りました。その流れで、横浜市社協の補助事業の「親と子のつどいの広場」に応募し、2008 年に「つどいの広場くすくす」が始まりました。

岩本）横浜での再スタートはどうでしたか?

覚知）仲間がいることが安心でした。
当時は、 スタッフの中で子育て中の人はあまり
いなかったので、 子育てしながら K2で働くことには
色々と悩みもありました。 子どもの体調不良の時に仕事と子どものどっちを優先させれば
いいのか分からなくなり、 福井の実家から親に来てもらったこともありました。 でも、 その時の
ことは今に活かされていると思います。

岩本）社会的にも子育てと仕事の両立をするのが大変な時だったかもしれません。

覚知）大きな会社に勤めているママ達には、 制度も整っていたかもしれませんが、
K2 の中では、 まだ草分け的な存在だったと思います。

岩本）つどいの広場の最初の頃はどうでしたか?

覚知）くすくすが始まったばかりの頃は、
あまり人が集まらず、 近所の公園でビラをまいた
こともありました。
その当時からいらっしゃるスタッフの深澤さんは、
今もくすくすにかかわってくださっているとても貴重なありがたい存在です。。

岩本）どのように人を集めたのですか?

覚知）自分がやりたいことを割と自由にさせてもらいました。 ビューティーサロンやヘッドマッサージは、
一番人気がありました。 100 人くらい集まりましたね。
今は事務局スタッフの松下さんも下のお子さんと一緒に来ていました。
ママ達のニーズを聞き取り、 色々試しながら（楽しみながら）続けていました。

岩本）K2の事業とは違うと言われたりしていた時期もあったと
思いますが。

覚知）地域に広く間口をあけて・・というのは、 くすくすが始まりだったように
思います。 くすくすと若者支援のメンバー達とはかなり違いがあったし、 全然違う層
の親御さんが来ていたので当初は隔たりがあったように思います。

岩本）今はどうですか?

覚知）その時は新しいものだったし、 全く異質のものであった。 種まきだったと思う。
そこがあったから今の子育て支援の形につながっているんですよね。

渡辺）理念や方針が出来てきてから、 それぞれの事業のつながりが明確になってきたように
思いますね。 根岸の地元の人達とのつながりは、 この子育て支援事業を通じて、
かなりできていると感じています。

覚知）当時、 プレ教室（幼稚園に入る前のプログラム）
も戦略的にやったわけでなく、 根岸にはプレ教室がない、
母子分離が必要なのでプレ教室をぜひやってほしいと
言われたのがきっかけなんですよね。

福島）今では、 他にもプレ教室が出来ているので、 これからは K2 のプレ教室とは何かを
考える必要があると思います。 また、 この間にスタッフも特性のある子への対応も
出来るようになり、 スキルもついてきたと思います。

渡辺）K2の活動についてもだんだん伝わり、 保護者の意識も変わってきました。 ぽにょ、 くすくす、
ぽっかぽかもK2グループの中の子育て支援事業として、 形になってきていると思います

岩本）いろんな人達がくすくすやぽにょで育っているし、 またママさんスタッフも増えてきてい
るのもこの事業をやってきたことの成果ですよね。

渡辺）小さい時からその子を知っていたというのは、 強いですよね。
今 10 年以上経って、 子ども達も親も成長して、K2 の中で
かかわる場所が変わっても繋がっているということですね。

覚知）正直、 自分が子育ての渦中だった時には、 子育て事業と若者支援の事業をどう合わせていけば良いか見えていなかったです。 異動で、 事務所で働くようになり、 俯瞰して見られるようになりました。

福島）2009 年に始まったぽにょ（学童クラブ）は、 Y-MAC（若者自立塾）の生徒だった若者が近くの学童クラブで働いていたのですが、 そこが閉所することになり、 地域に他に学童クラブがなかったこともあり、 彼の次の職場を作る意味でも自分たちで学童クラブを立ち上げようとなったのがきっかけでしたね。

渡辺）そう思うと、 その時、 その時に必要なことを事業にしてきたということですね。

福島）ぽにょを10年続けて、 ようやく地域や学校から存在が認められてきたと感じています。
時代もあるかもしれないですが。
学校もだいぶ変わってきましたし 。

岩本）千明さんの今後やりたいことは、 ありますか?

覚知）人材育成ですね。 新しいことをするには、
人が必要で、 自分達だけでは抱えきれないです。
パートでもアルバイトでも、 スタッフとしてかかわってくれる人達のサポートをするのが
自分の役割かなと思っています。 まずは、 K2 を知ってもらい、 自分たちの仲間、
チームメイトになってもらうことが一番大切です。 そこからきっと、
自ら K2 を支えたいと思ってくれる人が現れると思うので…。

岩本）今、 千明さんのお子さんも思春期を迎えていますが、 思春期のサポートについてはどうですか?

覚知）是非、 誰かにお願いしたい!長男は、 高校生になりましたが、 このまま 3 年何とか思春期を抜けてくれないか…色々と覚悟はしています。 もう親の言うことは聞かない年齢ですからね。
まぁ、 楽しそうにしているので、 何かあれば、 K2 の誰かに相談してもらいたいと思っています。

岩本）子育ての悩みは尽きないですね。。。

応援メッセージ

NPO 法人 子どもと生活文化協会 顧問 和田重宏

祝コロンブス 20 周年おめでとうございます。
コロンブスの金森さんとの出会いを今でも鮮明に覚えています。 その頃、 彼は子どもたちをヨットに乗せ、 ニュージーランドに連れて行き、 共同生活をしていました。 このことが「はじめ塾」が長年実践してきた寄宿生活教育と同じことでしたので、 会った瞬間から同じ世界にいる人だと実感しました。 はじめ塾は戦前、 戦中、 戦後に及ぶ 87 年の歴史を刻む寄宿生活塾です。
元をただせば、 祖父和田八重造が神奈川師範学校や旧制一高で博物学を教え、 三年間のアメリカ留学の後、 大学で教鞭をとりながら、 大正デモクラシイ一時に創られた成城学園など複数の学校の支援に携わり、 その中でも特に羽仁さんの自由学園の教育に情熱を注ぎ、 志を持って上京してきた若者たちを屋敷うちに住まわせたのが始まりです。 正式には父和田重正が 1933 年に東京杉並に寄宿寮「一誠寮」を建ててスタートしました。 昭和 17 年に小田原に疎開し、 現在に至ります。 僕は二代目の塾長で、 三代目に引き継ぐまで 32 年間塾長を務めました。
そんな折に、 福生の故工藤定次さんや富山の川又直さんの縁で、 金森さんがわざわざ小田原を訪ねてくれました。 以来長年にわたって親しくさせてもらっています。 実を言うと、 20 代から 30 代前半の僕は教育実践のあり様を学ぶために日本中の優れた教育実践者を訪ね回っていましたが、 父から「教育の課題や答を外に探しに行くのではなくて、 目の前の子どもたちと向き合うことで得られる」と言われたり、 尊敬する先輩の大学の研究室を訪ねた時に「今から思えば、 35 歳から 45 歳の 10 年間は、 ある程度経験も積んだことで活躍できるけど、 実は放電してしまうのだ。 この 10 年間こそ充電期にすべきだったと思う」という言葉を聞いて、 一念発起し、 預かっている塾生とその父母たちとだけに向き合うことを決めました。 以来、 10 年間小田原から一歩も出ず、 地下水脈を見つけるまで自分の井戸を掘り続けました。 その明けの頃、 地下水脈で出会った一人が金森さんでした。 その後、 岩本さんや福島さんたちと出会い、 交流させてもらっています。 交流を通じ、 僕には忘れがたい想い出があります。
NPO の活動の中で、 今までに経験をしたことのない事件があり、 困り果てて金森さんを訪ねた時、 予想外の声掛けをしてもらい、 救われました。 コロンブスの活動で重要なポストにいた岩本真実さんを CLCA の助っ人に出してくれるというのです。 桜木町の駅で、 この電話を受けた時、 正直言って地獄で仏に会った思いでした。 人に裏切られた経験のないわが人生での初めての大ピンチを救ってくれた金森さんと岩本さんには言葉に言い尽くせないほどの感謝をしています。
一つの領域では解決できないほど混沌とした現代社会での課題は山積しています。 金森さん率いるコロンブスは、 この社会的課題解決に向かって NPO としての使命を確実に果たそうとしています。 わが CLCA も遅れないように進みたいと思います。 今後ともどうぞよろしくお願い致します。

応援メッセージ

横浜市中区 小児科医 向山秀樹

コロンブスアカデミー創立 20 周年に添えて

20 周年を迎えるこのコロンブスアカデミーの基本母体は、 もう 30 年余り前より細やかな所帯よりスタートした。 通う学校に馴染めない子ども達に、 国は登校刺激をする旨、 教育施設に指示を出したが、 子ども達の心には届かなかった。 各学校、 家庭に於いても、 取る手段がなく、社会の眼が向けられるようになった。 丁寧に、 丁寧に、 子ども達の傍らに寄り添い、 時間を掛けて小さな振り向きを見逃さずに、 歩く前途を導いてきた。 途方もない時間を掛けて、 しかも、主催者の一環した信念の下、 大きく満開の花々になってきた。 時が流れ、 不登校のみならず、対象を大きく広げ、 今や小学生、 中学生、 成年、 また子育て中の母親や保護者にまで、 手を差し伸べるまでに至った。 活動の場もお好み焼き店、 パン製造、 食堂、 売店に加えて、広く南半球、 東南アジア等の海外拠点をしてきた。 育って行った子ども達が今や後に続く者を指導する立場になり、 より情熱を傾けている。 途切れの無い支援は、 主催者の愛と信念に由来するものの、 それに加担してきた多くの善意の人々の優しい努力があった事は、 いつまでも賞賛されるものと思わされる。

一つの事業が継続は力なりと広く世間に教示している事は時を待たない。 野辺に咲く小さな花を、大切にする心が一貫して、 一隅を照らしていると信じている。 次はどんな方向に発展するのか、心より楽しみにしているところです。 本当に価値のある光輝くアカデミーですね。

34 年以上の長きにわたり、 横浜市中区で地域小児科医として尽力されている向山先生は、活動初期からコロンブスのスタッフやメンバーの医療面、 精神面のサポートをしてくださっています。 私たちにとって、 困った時に駆け込んで相談させていただける信頼の厚い心強い存在です。 2005 年～ 2017 年まで中区医師会会長を務められ、
2011 年には日本小児科学会賞に小児保健賞、 2019 年には厚労省の保健文化賞にて
天皇皇后両陛下の拝謁を受けるなど、 これまでに数々の賞を受賞されています。

甲南大学マネジメント創造学部 教授 前田正子

コロンブスアカデミー 20 周年おめでとうございます。

2000 年代の初め頃、 小中学生の不登校は知られていました。 しかし進学や就職などで壁にぶつかり、 どこに出口があるのかが分からず途方に暮れる若者たちの存在は認識され始めたばかりでした。 横浜でも行政として若者支援に取り組むことを考え、 コロンブスアカデミーと巡り合いました。

「なぜ働かない若者を支援する必要があるのか」という声もありましたが、 アカデミーに来る若者たちを見て「必要な支援だ」という確信を持ちました。 横浜で多様な子ども・若者支援の事業が展開されているのは、 それを担う人材や団体があるからです。

また自由な発想で展開されているアカデミーの事業は、 赤ちゃんから幼児期、 学童期、 青年期と様々なライフステージに応じ本人に沿った多様な支援と居場所が必要だということを学ばせてくれます。 人は独りでは生きていけません。 コロンブスアカデミーの活動には人と人をつなぐ力があると応援しています。

大阪生まれ.
1982 年早稲田大学教育学部卒業.
男女雇用機会均等法施行前に就職，育児休業法施行前に出産退職.
1992 年から1994 年米国ノースウエスタン大学ケロッグ経営大学院に家族で留学.
帰国後は第一生命ライフデザイン研究所（現：第一生命経済研究所）で育児支援
や保育政策を研究．慶應義塾大学商学部で博士号取得後，
第 2 子の育児休業明けから横浜市副市長（2003-07 年）として医療・福祉・教育を担当.
横浜市国際交流協会理事長を経て 2010 年より現職.
著書に『大卒無業女性の憂鬱』（新泉社）『保育園問題』（中公新書）
『福祉がいまできること』『子育ては，いま』（岩波書店）他

応援メッセージ

コロンブスアカデミー 前理事長 坂本明美

コロンブスとの出会いは次男の不登校がきっかけでした。 その後、 長女と長男もお世話になったので結局子ども 3 人ともお世話になりました。
子ども 3 人関わった人はなかなかいないと思います。
最初は子どもを無理やり学校に行かせようとしたり、 当時の学校の先生も訪ねてきてくれたりもしましたが、 本当にどうしたらいいかわからなかったですね。
児童相談所でいくつかの団体を紹介されたのですが、 なぜコロンブスを選んだかはよく覚えていないですが、 息子にはあっていたんだと思います。
最初子どもを連れて根岸まで一緒に面談に行きました。 その後は自分から通っていました。
しばらくしてニュージーランドへ行きましたが、 不登校の息子がニュージーランドで学校に行くと言い出し、 結局大学まで卒業して、 今はコロンブス（K2）でスタッフとしてお仕事しています。
NPO 法人コロンブスアカデミーは当時の家族の会から設立しましたが、 家族の会は今とはだいぶ違い人数はまだ少なかったですが、 今のようにスマホもインターネットもなかったので 2 か月に 1 回の会には皆さん必ず遠くからも来ていたと思います。 必死に子どもの様子を聞いたり、夜遅くまで子どもの事を話してそのまま泊まったりもしていました。
私は 2004 年～ 2013 年までコロンブスの理事長をさせていただきましたが、 なんで理事長だったのかはよくわかりませんし、 実際何もしていないんですが、 年に何回かは顔を出させてもらっています。
あの時の必死な状況と比べると今はおかげ様で子どもの事は心配なく生活していますが、 途中で離れてしまったお子さんが今も元気に社会生活を送れているだろうか?と思います。 もし何かあった時に親が細くでも繋がっていればまた相談できるのではないかと思います。
関わり方は変わっても、 繋がっている事が大事ですよね。
私は、 これからも何らかの形で関わり続けて行きたいと思います。 それが、 今穏やかな気持ちで日々過ごせていられるのだと思います。

ぽにょ+保護者　柳村朋子

コロンブスアカデミー20周年おめでとうございます。
私たち家族がぽにょとお付き合いを始めて、 この4月で9年目に突入します。
思えば、 小学校入学にあたり、 個別支援級に所属することが決まっていた娘は、 どこの学童さんでも、「う～ん、 持ち帰って相談します」と言う回答ばかり頂いており、 正直、 仕事を辞めるしかないと思っていました。 オープンぽにょディに参加したこともあり、 お世話になれないかお話した際、「大丈夫ですよ～」と即答頂けたことが縁で、 こんなにも長いお付き合いとなりました。
娘の放課後をお願いするに当たり、 娘の特性を説明した時、「和ちゃんのペースでやっていけるよう見守りますね」と言っていただいたこと、 本当にほっとしました。 手を出して支援するのではなく、娘が何を望んでいるのかを観察し、 必要な支援をする。 すぐ手を出して、 結果、 大人が全部やってしまうのではなく、 本人が本当に困っている時に、 支援していただいたお陰で、 出来ることが増え、 自信にもつながったように思います。 おかげで娘はぽにょが、 スタッフさんが大好きになり、安心して通うことが出来ました。
（そして中学生になった今でも、 出没しています）そんな姉を見てきた弟も、 安心してぽにょにお世話になっています。 息子は本当にたくさんの体験をさせて頂いています。
ぽにょキャンプ、 虫キャンプ、NZツアー、 英会話、 プログラミング、 卓球。 どれほど楽しく、自分でいろいろと考えたのかをニコニコの笑顔で報告してくれます。 そんな2人の様子をスタッフさんに話していただくと、 母としての気付きがたくさんあります。 本当に感謝しています。
保護者会などで、 かっちゃん先生のお話を聞く機会がありますが、 心に留めている言葉があります。
「困った子、 ではなく困っている子なんだよ」そうだよね、 困っているのは子ども本人。 周りの大人じゃない。 とても大事なことなのに忘れがちなことです。 ぽにょには、 この視点があります。
ぽにょは、 健常児でも障がい児でもなく、 困っている子のために、 必要なことをしてくれる、 安心できる場所です。 学校、 家庭以外で、 子どもたちが飾ることなくそのままでいられる、 何かあったとき、 相談できる大人がいる。 ぽにょにはいつまでもそういう場所であってほしいと、 願っています。

コロンブスアカデミーのこれからを考える

認定 NPO コロンブスアカデミー　理事長 渡辺克美

今回、 あらためて 20 年の歩みを振り返り、 時代と共に多様化した若者の生きづらさに向き合い、さらに地域において、 子育て支援から青少年の自立支援まで**「途切れのない支援」**を目指して活動して来た変遷を感じました。 特に 2009 年から始まったぽにょぽにょ学童クラブの開所は、 大きな意味を持ち、 法人の活動の柱にもなっています。

これまでの若者支援で培った経験から、 小学校の時期に家と学校以外でどれだけ信頼できる大人や仲間とかかわり、安心して過ごせる自分の場所を持てるかが、その後の思春期、 青年期に孤立しない力を養うことにつながり、 そのことが、 不登校、ひきこもりの予防、 ひいては、 長期化するひきこもりの予防にもなると考えます。

私たちが理念に掲げる**「おもしろい子（個）を育てる」**は、 一人一人の自主性や個性を尊重し、 既存の視点を変えて、 人と違う点を魅力的な存在として育みたいという想いです。（そして、 それは、 こどもたちに限らず、 その家族や支援者、 協力者、 スタッフなどかかわるすべての人にも当てはまります。）

これからのコロンブスアカデミーも、 時代に合わせて進化、 発展させつつ、 この地域で、 子どもたちの成長を共に見守り、 一時的な居場所ではなく、 いつでも戻ってこられる「基地」として、面白い（魅力的な）人が集まる場所を作っていきたいと思います。

最後に、 今年の 6 月より**「こども食堂」**を始めたことをご報告いたします。

今、 日本だけではなく世界をも席巻する新型コロナウィルスの影響を受け、 これまでと同じではいられないという強い危機感を持たされました。あらためて本当に自分たちに求められている支援や活動は何かをこれから広がるであろう経済格差を含めた、 こども・若者 たちを取り巻く環境の変化にも対応できる組織形成と活動に取り組んでいきたいという想いを強くしています。

[NPO コロンブスの運営する主な事業一覧]

認定NPOコロンブスアカデミー
CERTIFIED NONPROFIT ORGANIZATION COLUMBUS ACADEMY

〒235-0005 神奈川県横浜市磯子区東町 9-9
TEL:045-761-0167 FAX:751-9460
columbus@k2-inter.com　https://npocolumbus.or.jp

よこはま 南部ユースプラザ

〒235-0016 神奈川県横浜市磯子区磯子 3-4-23 ／浜田ビル 2F
TEL:045-761-4313 FAX:045-761-4023　info@nanpla.jp　https://nanpla.jp

金沢区寄り添い型生活・学習支援事業
YOKOHAMA IROHA
いろは塾

〒236-0028 神奈川県横浜市金沢区洲崎町 2-6 アイワパークサイドビル 5F
TEL : 080-4053-5434

金沢区青少年の地域活動拠点
カナカツ
KANA KATSU

〒236-0028 神奈川県横浜市金沢区洲崎町 2-6
アイワパークサイドビル 1F TEL&FAX : 045-374-4035　https://kana-katsu.com

磯子区青少年の地域活動拠点
イソカツ
ISOKATSU

〒235-0016 神奈川県横浜市磯子区磯子3-4-23／浜田ビル 2F
TEL : 080-4423-1876　https://iso-katsu.com

横浜市補助事業・親と子のつどいの広場
子育てスポット くすくす

おもしろい子(個)を育てる！
放課後ドラマ
ぽにょ+プラス

〒235-0005 神奈川県横浜市磯子区東町 9-9 TEL:045-753-5216
https://kusukusu-baby.com　https://ponyo-plus:com

認定NPOコロンブスアカデミー
CERTIFIED NONPROFIT ORGANIZATION COLUMBUS ACADEMY
こども食堂
250にこまる+プラス

〒235-0005 神奈川県横浜市磯子区東町 9-9 TEL:045-761-0167

認定 NPO 法人コロンブスアカデミー

編集・制作　コロンブスアカデミー 20 周年記念制作チーム

発行日　2020 年 7 月 1 日
発行元　認定ＮＰＯ法人コロンブスアカデミー
横浜市磯子区東町 9-9　TEL:045-761-0167